

科目名	会計学 I Accounting I						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA Minoru						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目] 法学部・法律学科 [専門教育科目 関連科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	<p>会計学は、情報、語学（英語）と並んで、ビジネスの三種の神器と位置付けられています。共にビジネスパーソンに欠かせない基本知識ですが、中でも企業会計は現在大きな変換点にあり、表面的な動向だけでなく、理論的な深い学習をしなければなりません。そのためには、会計数値が持つ意味を1つ1つ読み解いていくとともに、背景にある理論や考え方を理解することが重要になります。</p> <p>本講義では、会計学の基礎的な理論（損益計算書を中心に）を学習します。講義の進め方は、テキストに基づいて、講義を中心に進めていきます。必要に応じて、レジュメを配布します。</p>						
授業の到達目標	<p>①ビジネスの必須知識である会計学の基本構造（損益計算書を中心に）を理解する。 ②今後の会計上級科目への知識基盤を作る。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション：会計とは何か					
	2	会計の役割<1>財務会計と管理会計					
	3	会計の役割<2>企業会計への法規制					
	4	利益計算の仕組み<1>複式簿記の構造					
	5	利益計算の仕組み<2>利益計算と財務諸表					
	6	利益計算の仕組み<3>財務諸表の体系					
	7	利益計算のルール<1>会計公準					
	8	利益計算のルール<2>企業会計原則一般原則					
	9	利益計算のルール<3>損益計算書原則					
	10	利益計算のルール<4>貸借対照表原則					
	11	売上高と売上債権<1>営業循環における収益の認識					
	12	売上高と売上債権<2>収益認識基準の適用					
	13	棚卸資産と売上原価<1>取得原価と原価配分					
	14	棚卸資産と売上原価<2>期末評価					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	毎回、テキストの対象範囲を読んでもらうこと（1時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	講義に関する新聞記事等を提示するので、要約してもらうこと（3時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	①定期試験 ②課題の提出				90% 10%		①② ①②
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	桜井久勝『会計学入門 第5版』日本経済新聞社						
参考文献							
その他	<p><どのような学生の受講が望ましいか> ・会計の分野に興味がある学生 ・基礎的な会計知識を身につけたい学生 ・将来、経理・財務担当者、銀行員、商業科の教員になりたい学生 <あらかじめ受講して欲しい科目> なし <併行して受講して欲しい科目> 簿記論（or 上級簿記）</p>						